

# 技術・家庭科教育関係雑誌「技術教室」における 近年の衣生活教育実践の検討

杉村 桃子(家政教育講座家庭科教育研究室)・綿引 伴子(金沢大学)

## An Analysis of Classes on Clothing Education Described in Publications of “Journal of Technical Education”

Momoko SUGIMURA and Tomoko WATAHIKI

### 1. 緒言

1998年12月14日に現行学習指導要領が告示され、完全5日制に向けた授業時間数の大幅な削減、領域別の構成から分野別の構成への変更、履修学年の制約の廃止等の新教育課程が2002年4月から完全実施された。告示に伴い、2000年度からは移行措置が始まり、教育現場においては現行教育課程に沿って授業が進められるようになった。特に、現行学習指導要領では、中学校の「技術・家庭科」について技術分野と家庭科分野の目標が別々に設けられたため、評価を中心に各教科のあり方が話題になっている。

家庭科は、戦後約60年の歴史があるが、1946年から1993年までの授業実践については、田結庄他により分析されている<sup>1)2)</sup>。1950年代以降、衣生活教育の中心は「ものづくり」を主とする「被服構成、縫い」であり、実践全体の3～5割を占めていた。特に小学校・中学校で多く、被服教育＝裁縫という固定観念は強固なものであった。しかし、70年代以降、独自教材の導入や時代の進展などにより、多彩な課題が取り上げられはじめ、80年代以降では「環境問題」「洗剤」「水の汚染」「服装史」「民族服飾」などへの課題が扱われることが急増した。

現行学習指導要領の施行により、家庭科の授業時間数削減の影響が小・中・高校での授業実践にも及ぶと考えられたため、著者らは家庭科教育に関する主要な雑誌である「家庭科教育」と「家庭科研究」に掲載されている授業実践を対象として、衣生活領域の課題分類やキーワードを年度別、学校別に分析した<sup>3)</sup>。その結果、小・中学

校では、1990年代は「ものづくり」の中心である「被服構成、縫い」が約5割以上を占め、被服教育の根幹を成していたが、2000年以降「被服構成、縫い」が大きく減少し、学習内容の多様な広がりがみられた。また、被服製作題材については、小・中学校では近年はより時間がかからずに行える小物が多く取り上げられるようになっていくことが明確になった。そのため、今後はいくつかの課題を融合させたものづくり・クロスカリキュラムの志向やこれらの題材開発の可能性が示唆された(以下「前報」とする)。

そこで、本報では、雑誌の性格上「家庭科教育」や「家庭科研究」よりもものづくりや実習の実践が多く掲載されていると思われる「技術教室」に掲載されている授業実践を対象に、衣生活教育実践の実態から変化及び特徴を把握し、これからの家庭科教育に必要とされる衣生活教育のあり方について、前報<sup>3)</sup>と比較しながら、どのような教材や授業実践が必要とされているかを探ることを目的とする。

### 2. 研究方法

#### 2.1 調査方法及び調査対象

技術・家庭科教育に関する主要な雑誌である「技術教室」(農山漁村文化協会)の、1999年1月から2003年12月までに収録された衣生活領域における授業実践を抽出する。それらを対象に教育内容の課題分類や衣生活領域のキーワード、「被服構成、縫い」のキーワードによる分析を行う。特に先行の1946年から1993年の実践分析

結果や前報と比較しながら1999年以降の動向を分析する。現行学習指導要領が告示された翌年以降の動向を調べるため対象年を1999～2003年とした。

課題分類とキーワードは、前報<sup>3)</sup>と同様に、田結庄他の研究<sup>1) 2)</sup>に基づいた。課題分類は、①衣生活、被服心理、②服飾史、民俗服飾、民族服飾、③被服構成、縫い、④被服衛生、生理、⑤被服材料(繊維、織り、布)、⑥被服整理、管理、洗濯、⑦環境問題(洗剤、水の汚染)、⑧被服一般、⑨その他の9項目を用いた。ただし、衣生活領域の複数実践報告は⑧被服一般、また総合的な学習の実践報告は⑨その他に分類した。

## 2.2 調査対象の属性

抽出された授業実践記録は全体で46編であった。

年別では、1999年13編、2000年14編、2001年10編、2002年5編、2003年4編であった。

学校別では、小学校6編、中学校29編、高校9編、その他(養護学校、聾学校)2編であった。

## 3. 結果と考察

### 3.1 教育内容における課題分類の特徴

「技術教室」における衣生活領域の授業実践を、教育内容における課題分類に基づいて学校別に集計した結果を表1に示す。

表1 課題分類の学校別合計

	件(%)				
	全合計	小	中	高	その他
① 衣生活、被服心理	1( 2.2)	0( 0.0)	1( 3.4)	0( 0.0)	0( 0.0)
② 服飾史、民俗服飾、民族服飾	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
③ 被服構成、縫い	20( 43.5)	0( 0.0)	14( 48.3)	5( 55.6)	1( 50.0)
④ 被服衛生、生理	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
⑤ 被服材料(繊維、織り、布)	4( 8.7)	0( 0.0)	4( 13.8)	0( 0.0)	0( 0.0)
⑥ 被服整理、管理、洗濯	3( 6.5)	0( 0.0)	3( 10.3)	0( 0.0)	0( 0.0)
⑦ 環境問題(洗剤、水の汚染)	3( 6.5)	1( 16.7)	1( 3.4)	1( 11.1)	0( 0.0)
⑧ 被服一般	4( 8.7)	0( 0.0)	2( 6.9)	2( 22.2)	0( 0.0)
⑨ その他	11( 23.9)	5( 83.3)	4( 13.8)	1( 11.1)	1( 50.0)
合計	46(100.0)	6(100.0)	29(100.0)	9(100.0)	2(100.0)

表1から、1999～2003年の全体では、「③被服構成、縫い」が43.5%と最も多い。学校別では、小学校での実

践報告はなく、中学校48.3%、高校55.6%であり、中学・高校の両校において他の課題に比べかなり多い。

「③被服構成、縫い」以外では、小学校では、総合的な学習を含む「⑨その他」83.3%、「⑦環境問題(洗剤、水の汚染)」16.7%、中学校では、「⑤被服材料」13.8%、同様に、総合的な学習を含む「⑨その他」が13.8%、高校では、「⑧被服一般」22.2%、次いで「⑦環境問題(洗剤、水の汚染)」及び総合的な学習を含む「⑨その他」が11.1%である。

小・中・高校いずれにおいても被服構成に次いで多く行われている内容の1つには、総合的な学習と関連させた「⑨その他」であった。このことは、2002年4月から現行教育課程が施行され、授業時間数の大幅な削減や領域別の構成から分野別の構成への変更、総合的な学習の時間新設の影響があると考えられる。「⑨その他」の詳細は3.3で述べる。

### 3.2 学校別、年別にみた課題分類の特徴

衣生活領域の課題分類のデータを年別(1999～2003年)、学校別にクロス集計したものを表2に示す。また、表2から学校別に実践課題を年別に集計した結果を図1～3に示す。

#### (1)小学校

小学校実践の年代別課題分類を図1に示す。

小学校では、総合的な学習を含んだ「⑨その他」の実践報告が最も多い。年別では2000年3件、2001年2件で

表2 年別課題分類の学校別合計

件(%)

	小学校					中学校					高校				
	1999	2000	2001	2002	2003	1999	2000	2001	2002	2003	1999	2000	2001	2002	2003
① 衣生活, 被服心理	0	0	0	0	0	1(9.1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 服飾史, 民俗服飾, 民族服飾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 被服構成, 縫い	0	0	0	0	0	6(54.5)	0	2(50.0)	3(75.0)	3(100.0)	1(100.0)	0(0.0)	3(100.0)	0	1(100.0)
④ 被服衛生, 生理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 被服材料(繊維, 織り, 布)	0	0	0	0	0	2(18.2)	2(28.6)	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 被服整理, 管理, 洗濯	0	0	0	0	0	1(9.1)	1(14.3)	0	1(25.0)	0	0	0	0	0	0
⑦ 環境問題(洗剤, 水の汚染)	0	0	0	1(100.0)	0	0	1(14.3)	0	0	0	0	1(25.0)	0	0	0
⑧ 被服一般	0	0	0	0	0	1(9.1)	0	1(25.0)	0	0	0	2(50.0)	0	0	0
⑨ その他	0	3(100.0)	2(100.0)	0	0	0	3(42.9)	1(25.0)	0	0	0	1(25.0)	0	0	0
合計	0	3(100.0)	2(100.0)	1(100.0)	0	11(100.0)	7(100.0)	4(100.0)	4(100.0)	3(100.0)	1(100.0)	4(100.0)	3(100.0)	0	1(100.0)

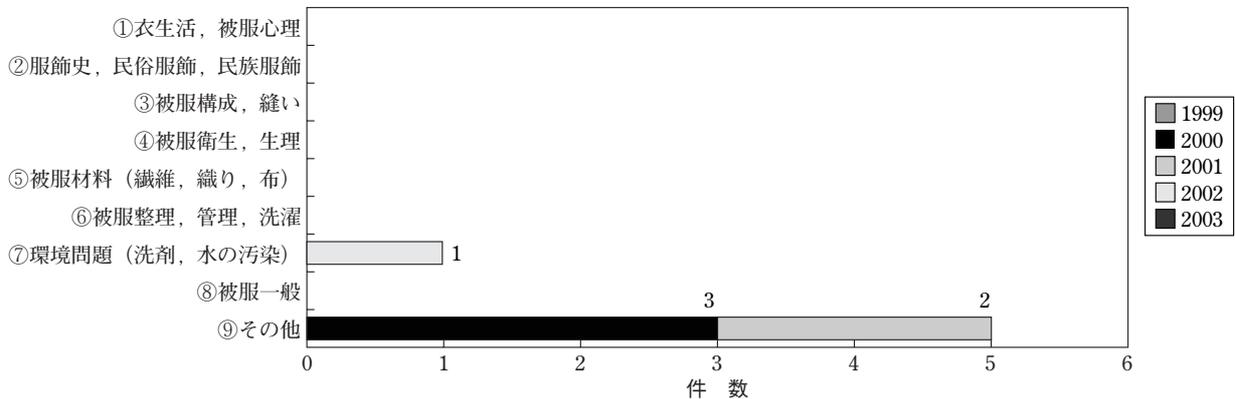


図1. 小学校実践の年代別課題分類

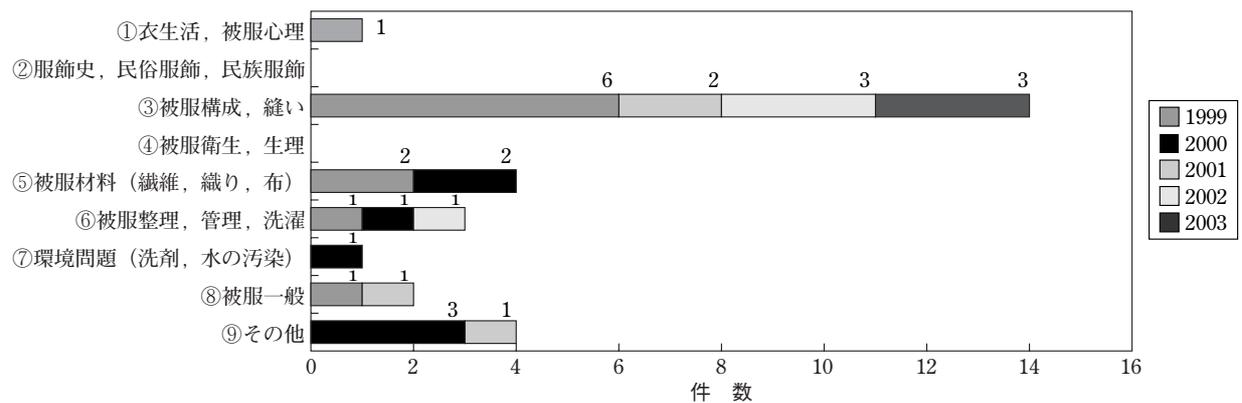


図2. 中学校実践の年代別課題分類

あった。次いで、「⑦環境問題(洗剤, 水の汚染)」が2002年に1件報告されている。いずれも総合的に学ぶ題材といえる。「①衣生活, 被服心理」, 「②服飾史, 民俗服飾, 民族服飾」, 「③被服構成, 縫い」, 「④被服衛生, 生理」, 「⑤被服材料(繊維, 織り, 布)」, 「⑥被服整理,

管理, 洗濯」, 「⑧被服一般」に関する実践報告はみられない。「③被服構成, 縫い」単独の実践はないが, 「⑨その他」にカウントした, 被服構成を含んだ総合的な学習における実践はみられた。

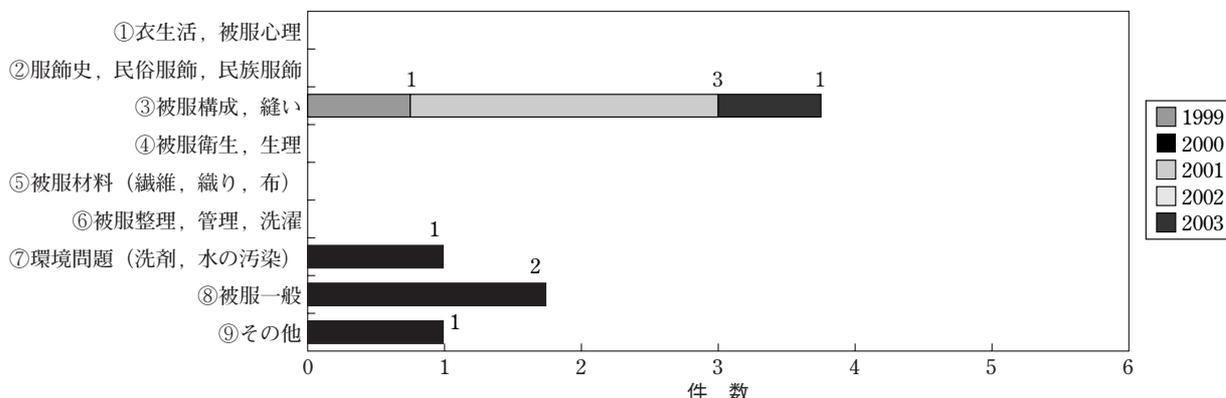


図3. 高校実践の年代別課題分類

## (2) 中学校

中学校実践の年代別課題分類を図2に示す。

全体的にみれば、すでに述べたように他の課題に比べて「③被服構成、縫い」が圧倒的に多い。年別にみると、1999年は54.5%、2000年は0.0%、2001年は50.0%、2002年は75.0%、2003年は100.0%であると増加している。

各年別の実践報告をみると、1999年では「①衣生活、被服心理」(1)、「③被服構成、縫い」(6)、「⑤被服材料(繊維、織り、布)」(2)、「⑥被服整理、管理、洗濯」(1)、「⑧被服一般」(1)、2000年では「⑤被服材料(繊維、織り、布)」(2)、「⑥被服整理、管理、洗濯」(1)、「⑦環境問題(洗剤、水の汚染)」(1)、「⑨その他」(3)と1つの課題に偏るのでなく、あまり差がみられない。しかし、2002年以降には「③被服構成、縫い」の実践報告に偏っている。その他、中学校では1999～2003年には「②服飾史、民俗服飾、民族服飾」、及び「④被服衛生、生理」の実践報告は見られなかった。

## (3) 高校

高校実践の年代別課題分類を図3に示す。

中学校と同様に「③被服構成、縫い」が他の課題と比べると多い。年代別では、1999年100.0%、2000年0.0%、2001年100.0%、2003年100.0%であった。2000年には「⑧被服一般」(2)、「⑦環境問題(洗剤、水の汚染)」(1)、「⑨その他」(1)と「③被服構成、縫い」以外の課題での実践報告がみられた。

以上のことから、中・高校においては、他の課題に比

べると「③被服構成」の実践報告が圧倒的に多く、小学校では「③被服構成、縫い」単独の実践はなかったが、「⑨その他」にカウントした、被服構成を含んだ総合的な学習における実践がみられた。よって、「技術教室」の衣生活領域における授業実践においては、現在でも「③被服構成、縫い」が多かった。その他、現行教育課程施行により、さらに環境教育や総合的な学習とを関連付けた課題研究が行われるようになったことが示唆された。

## 3.3 衣生活領域の実践のキーワード

衣生活領域の実践におけるキーワードを学校段階別に集計した結果を表3に示す。

全体にみると、被服製作物以外では小・中・高校いずれにおいて共通な実践のキーワードが見られない。内容的に題材として関連があるキーワードを見ると、「合成洗剤」「洗濯」「石けん作り」であり、これらは環境学習の一環として取り組まれている。

小学校と中学校とでは、「染色」「コースター」「布作り」「指編みマフラー」が重複している。中学校と高校とでは、「糸紡ぎ」「エプロン」「花ふきん」、また、小学校と高校とでは、「合成洗剤」が重なっている。総合的な学習における「染色(草木染め)」の授業例についてみると、藍<sup>4,5)</sup>や紅花<sup>6)</sup>の栽培から布や糸を染め、それをマフラーやコースターに作り上げるという、一連の体験・実習を通したカリキュラム編成などの実践報告がみられた。また、「花ふきん」については、中学校では花ふきん製作を授業の題材として実践報告している<sup>7)</sup>のに

表3 衣生活領域の実践のキーワード

(件)

小学校	中学校	高校			
染色	4	染色	8	ショートパンツ	3
コースター	2	帽子	6	エプロン	1
布作り	1	布作り	4	シャツ	1
ハンカチ	1	コースター	4	ジャケット	1
クッション	1	糸紡ぎ	4	バック	1
指編みマフラー	1	ティッシュケース	3	花ふきん	1
合成洗剤	1	ウォールポケット	3	基礎縫い	1
	1	ボール作り	3	糸紡ぎ	1
		ぞうきん	2	撚糸	1
		ひも作り	2	しおり作り	1
		こぎん刺し	2	ファッションショー	1
		エプロン	1	合成洗剤	1
		指編みマフラー	1	服飾史	1
		花ふきん	1	採寸	1
		石けん作り	1		
		洗濯	1		
		お手玉	1		
		はっぴ	1		
		指人形	1		
		ぬいぐるみ	1		
		ランプシェード	1		
		ペーパーウエイト	1		
		卵のポプリ	1		
		布のアルバム	1		
		クリスマスツリー	1		
		リボンのリース	1		
		押し花のラミネート作り	1		
		テーブルセンター	1		
		Tシャツ	1		
		衣類取り扱い表示	1		
		チョークリレー	1		

対して、高校ではショートパンツの作業時間の調整に自習として取り込んだ報告が見られた<sup>8)</sup>。時間削減における被服製作において、生徒間の作業時間の調整等に小物を上手く取り組み、効果的な題材の活用が見られた。

学校別では、小学校は、染色(草木染め)が最も多く(4)、次いでコースター作りの実践報告(2)が多い。前述した表1からも分かるように、小学校での実践報告は、総合的な学習を含む「⑨その他」が多いことから、製作実習等の実技報告が多い「技術教室」では、単独課題として題材に取り組むことより、総合的な学習の一つとして衣生教育の実践が行われている。

中学校では、小学校と同様に、染色(草木染め)が最も

多く、次いで、帽子作りの実践報告が多い。帽子作りについては、キャップやハット、チューリップハットのように型紙製作が簡単で、デザインへの生徒自身の工夫、例えば、はぎ布をかえたり、ワッペンやリボンなどをつけることができるという、創造性豊かなものづくりの魅力があげられている<sup>9)</sup>。また、帽子作りは、少量の布で製作が可能であるため、余り布や古着、タオルなどが利用でき、衣類のリサイクルという観点からも題材として広く取り扱われていると考えられる。

高校では、ショートパンツが最も多い。小・中学校と比較すると、授業時間削減の影響があるとはいえ、被服製作物として製作時間のかかる題材が用いられている。

授業においては、従来の被服製作のみではなく、エプロン製作を通して、服飾史を被服実習に結びつける試みが報告されている<sup>10)</sup>。この他、生徒自身の採寸を通して、自分にあったサイズの被服の選び方を学習させるという消費者教育と関連させた実践報告が見受けられた<sup>11)</sup>。

いずれの学校においても、前報と比較すると、被服製作時間の短時間化の影響が、実践報告のキーワード中に、

なく、単独課題同士を融合させた複合課題とする授業展開の研究が求められると考えられる。

### 3.4 「被服構成, 縫い」のキーワード

被服製作の題材に着目して、「被服構成, 縫い」の実践のキーワードを集計した結果を表4に示す。

教科書製作題材と独自製作題材は合計で40件あり、そ

表4 「被服構成, 縫い」のキーワード

		件(%)			
	キーワード	合計	小	中	高
教科書製作題材	Tシャツ	1	0	1	0
	はんでん	0	0	0	0
	ベスト	0	0	0	0
	ショートパンツ	3	0	0	3
	合計	4( 10.0)	0( 0.0)	1( 3.1)	3( 37.5)
独自製作題材	帽子作り	6	0	6	0
	ウォールポケット	3	0	3	0
	ティッシュケース	3	0	3	0
	ボール作り	3	0	3	0
	エプロン	2	0	1	1
	コースター	2	0	2	0
	こぎん刺し	2	0	2	0
	ぞうきん作り	2	0	2	0
	お手玉	1	0	1	0
	リボンのリース	1	0	1	0
	クリスマスツリー	1	0	1	0
	布のアルバム	1	0	1	0
	卵のポプリ	1	0	1	0
	ペーパーウェート	1	0	1	0
	指人形	1	0	1	0
	ぬいぐるみ	1	0	1	0
	さき織り	1	0	1	0
	シャツ	1	0	0	1
	バック	1	0	0	1
	ジャケット	1	0	0	1
	基礎縫い	1	0	0	1
	合計	36( 90.0)	0( 0.0)	31( 96.9)	5( 62.5)
	全合計	40(100.0)	0(100.0)	32(100.0)	8(100.0)

現れている。例えば、小学校では「染色」「合成洗剤」、高校では「撚糸」「採寸」のように、総合的な学習やクロスカリキュラムと関連付けたキーワード、また、中学校では小物作りを中心とした多彩な題材のキーワードが現れていて、今後はより一層、製作題材の研究だけでは

のうち、教科書製作題材は4件(10.0%)、独自製作題材は36件(90.0%)で、独自製作題材が圧倒的に多い。前述したように、小学校での実践報告はなかったが、学校別の教科書製作題材と独自製作題材との比率は、中学校1:31、高校3:5であり、中学校では独自製作題材のほうが

教科書製作題材よりかなり多い。高校では独自製作題材のほうが教科書製作題材より1.7倍多い。特に、中学校の教師たちは教科書の題材に満足できず、手芸を中心とした自主教材を模索している様子が見える。

授業時間削減により、時短化を克服するような題材研究が行われている。例えば、ウォールポケットのような、ポケットの大きさなど創意工夫が可能で、かつ、装飾(ステンシル・刺繍・アップリケ)などデザイン性に個性あふれる題材の導入である<sup>12)</sup>。この他、ティッシュケース<sup>13,14)</sup>やお手玉<sup>15)</sup>のような小物は、1時間でいくつも作ることができるので、生徒は段々上手く作れるようになり、生徒自身も満足し、製作及び授業に対する意欲向上に結びつくことが成果として報告されていた。特に、お手玉は、ウォールポケットと同様に、デザインの工夫が多彩であり、実践では、「チューリップ」「フクロウ」「いちご」「ミニトマト」をデザインしたお手玉などが報告されていて<sup>15)</sup>、生活文化の継承だけではなく、生徒自身の創造性を養うのに適切な題材であると考えられる。

製作に使用する布についても、端切れの活用を提案しており、環境や自然との関わりを大切にしたりサイクルという点でも注目できる。

### 3.5 衣生活領域における総合的な学習の実践のキーワード

前述したように、2002年4月から現行教育課程が実施され、授業時間数の大幅な削減のみならず、領域別の構成から分野別の構成へと変更された。それに伴い、その影響が実践報告のキーワード中にも現れており、総合的な学習と関連させた「⑨その他」の実践報告が多く見受けられた。そこで、「⑨その他」でカウントされた実践報告について着目し、衣生活領域における総合的な学習の実践としてのキーワードを集計した結果を表5に示す。

表5から、藍<sup>4,5)</sup>や紅花<sup>6)</sup>のような草木染め植物の栽培やケナフの栽培<sup>16,17)</sup>が、小・中学校で実践として行われていることがわかる。ケナフ栽培の紙すきでは、牛乳パックとの比較や栽培方法の検討などを通じて、環境教育

表5 衣生活領域における総合的な学習の実践のキーワード

(件)

小学校	中学校	高校	
藍栽培 ・生葉染め (毛糸(指編みマフラー)) ・たたき染め (コースター) (クッション) ・絞り染め (ハンカチ)	3 (1) (1) (2) (2) (1) (1) (1) (1)	ケナフ栽培 ・紙すき (コースター) ・炭焼き ・ひも作り ・ケナフ染め ・情報収集	2 (2) (1) (1) (1) (1) (1)
ケナフ栽培 ・紙すき ・栽培方法の検討 ・情報収集	1 (1) (1) (1)	綿花栽培 ・コットンボール 紅花栽培 ・紅花染め (布) ・押し花のラミネート作り ・リーフレット作り	1 (1) 1 (1) (1) (1) (1)
草木染め ・毛糸(指編みマフラー) (蓬) (トマト) (ドングリ) (セイタカアワダチ草)	1 (1) (1) (1) (1)	亜麻栽培 ・繊維抽出 ・撚糸 ・しおり作り	1 (1) (1) (1)
布作り ・地場産業 ・クロスカリキュラム	1 (1) (1)		

表6 被服一般の実践のキーワード (件)

中学校		高 校	
草木染め	2	布のファッションショー	1
・花ふきん	(1)	糸紡ぎ	1
・コースター	(1)	花ふきん	1
・和紙のランプシェード	(1)	採寸	1
糸紡ぎ	1		
綿花栽培	1		
・布作り	(1)		
(テーブルセンター)	(1)		
(マフラー)	(1)		

を兼ねた実践報告が見られた<sup>16)</sup>。全体的に、衣生活領域における総合的な学習の教材としては、藍の栽培や綿花、亜麻の栽培、ケナフの栽培の実践報告が多く見受けられる。その理由としては、学年に応じた体験学習やものづくりができることが考えられる。これらの教材は、体験的学習やものづくり学習にとどまらず、生活文化の継承、及び、地域資源を現代に生かし創造する力、環境に配慮したライフスタイル・生活の創造を育むのに適切であると考えられる。

### 3.6 「被服一般」として抽出した実践報告中のキーワード

先に述べた「課題分類」で、各単元のみの実践報告だけでなく、衣生活領域全般に渡った報告として分類した、「被服一般」の実践のキーワードを集計した結果を表6に示す。ただし、小学校での実践報告は見られなかったため、中学校と高校での実践報告のキーワードを示す。

中学校では、草木染をして花ふきんやコースターなどをつくったり、綿花を栽培してテーブルセンターやマフラーをつくったり、糸紡ぎの実践がみられた。高校では、布のファッションショー、糸紡ぎ、花ふきん、採寸の実践がみられた。中学校と高校とでは、「花ふきん」「糸紡ぎ」が重複している。

## 4. 要 約

・1999年1月号から2003年12月号までの実践全体をみ

ると、「被服構成、縫い」が、中学校48.3%、高校55.6%であり、被服製作を取り上げる授業が他に比べ圧倒的に多かった。

・小・中・高校いずれにおいても被服構成に次いで多く行われている内容の1つには、総合的な学習と関連させた「⑨その他」であった。

・小学校では、総合的な学習を含んだ「⑨その他」の実践報告が最も多く、次いで、「⑦環境問題(洗剤、水の汚染)」が報告されていて、いずれも総合的に学ぶ題材であった。

・中学校では、他の課題に比べて「③被服構成」が圧倒的に多く、増加傾向が見られた。また、各年別の実践報告をみると、1999年と2000年では1つの課題に偏るのではなく、広範囲な題材が報告されていて、あまり差がみられなかった。しかし、2002年以降には「③被服構成、縫い」の実践報告に偏っていた。

・高校では、中学校と同様に、他の課題と比べると依然として「③被服構成、縫い」が多かった。

・教科書製作題材と独自製作題材の割合を全体でみると、教科書製作題材4件、独自製作題材36件であったが、中学校1:31、高校3:5であり、特に中学校では、これまで以上に独自製作題材を模索している様子が見ええた。

・いずれの学校においても、被服製作時間の短時間化の影響が、実践報告のキーワード中により現れていた。例えば、小学校では「染色」「合成洗剤」、高校では「撚糸」「採寸」のように、総合的な学習やクロスカリキュラムと関連付けたキーワード、また、中学校では小物作りを

中心とした多彩な題材のキーワードが現れていた。今後はより一層、製作題材の研究だけではなく、単独課題同士を融合させた複合課題とする授業展開の研究が求められると考えられた。

・授業時間削減により、ウォールポケットやティッシュケース、お手玉のような時短化を克服するような題材研究が行われていて、生活文化の継承だけではなく、生徒自身の創造性を養うのに適切な題材をはじめ、環境や自然との関わりを大切にされた題材の実践報告が見受けられた。

・小・中・高校では、総合的な学習と関連させた授業が報告されていた。特に、藍の栽培や綿花、亜麻の栽培、ケナフの栽培の実践報告が多く見受けられた。

・授業数削減により、各単元のみの実践報告だけではなく、いくつかの単元を関連させた衣生活領域全般に渡った報告（「被服一般」の実践）が見られるようになった。

## 5. まとめ

1999年1月号から2003年12月号までの雑誌『技術教室』に掲載されている授業実践を対象として、衣生活領域の課題分類やキーワードを年度別、学校別に分析した。その結果、次のようなことが明らかになった。

前報とは異なり、雑誌の性格上考えられることであるが、「ものづくり」の中心である「被服構成、縫い」が依然としてより多く実践されていた。しかし、内容をみると変化が見られた。

総合的な学習を含んだ「その他」の実践報告が見られるようになった。これは、総合的な学習の時間の新設などにより、衣生活領域の学習を総合的に学ぶ題材として、より一層の授業開発が行われているからであると考えられる。特に、藍の栽培や綿花、亜麻の栽培、ケナフの栽培の実践報告が多く見受けられた。

また、小・中・高校で被服製作物以外の題材として内容的に関連があるキーワードを見ると、「合成洗剤」「洗濯」「石けん作り」があり、これらは環境学習の一環として取り組まれていた。

この他、授業数削減により、各単元のみの実践報告だけではなく、衣生活領域全般に渡った実践報告が見受けられるようになり、そのキーワードから、中学校・高校

を通じて、衣生活領域では「被服構成、縫い」と「被服材料」が授業課題として取り入れられていることが分かった。即ち、総合学習や環境教育、消費者教育とを関連付けた授業内容中に、課題として「被服構成、縫い」「被服材料」を取り込んだ授業開発が今後も多彩に展開されると考えられる。

被服製作題材については、前報と同様に、いずれの学校においても、近年はより時間がかからずにできる小物が多く取り上げられるようになっていた。また、授業数削減により、各単元のみの実践報告だけではなく、いくつかの課題を融合させたものづくり・クロスカリキュラムも志向されていた。

今後はこれらのカリキュラム開発・題材開発が求められることが明確になった。

## 引用文献

- 1) 田結庄順子・吉原崇恵・柳昌子：「第4章第7節 被服」, 田結庄順子編著『戦後家庭科教育実践研究』, 梓出版社, 1996, p.325～342
- 2) 田結庄順子・西丸理恵：「第2章第3節 結果の概要と考察」, 前掲1)p.112～113, 135
- 3) 綿引伴子, 杉村桃子：「家庭科教育関係雑誌における衣生活教育実践」, 金沢大学教育工学・実践研究, 30(2004) (in press)
- 4) 真山栄子：「小学生も体験できるアイの生葉染め」, 技術教室, 2000年4月号, p.8～13
- 5) 真山栄子：「『指編みマフラー』でつけた自信で子どもが変わる」, 技術教室, 2001年6月号, p.12～15
- 6) 荒井智子：「地域の象徴『紅花』で修学旅行を総合化」, 技術教室, 2000年9月号, p.14～19
- 7) 久保田仁美：「不用衣料を草木染でリサイクル」, 技術教室, 2001年6月号, p.16～22
- 8) 志知照子：「型紙の製図から作るパンツ」, 技術教室, 2001年1月号, p.70～77
- 9) 森明子：「帽子ができた！自分ってすごいなあ」, 技術教室, 1999年4月号, p.38～47
- 10) 明楽英世：「エプロンはエジプト王の衣服を飾った」, 技術教室, 1999年3月号, p.54～59
- 11) 志知照子：「工業高校での被服指導」, 技術教室, 2000年12月号, p.54～69

- 12) 「加工」分科会：「見通しの立つ教材で自身を持たせる」, 技術教室, 2002年11月号, p.24～27
- 13) 森田裕子：「誰でも“縫い”をマスターできるティッシュケースづくり」, 技術教室, 1999年4月号, p.32～37
- 14) 「ものづくりA」分科会：「素材を大切にしたものづくりの授業」, 技術教室, 1999年11月号, p.10～13
- 15) 森田裕子：「楽しさが伝わる布を使ったものづくり」, 技術教室, 2001年4月号, p.38～45
- 16) 居川幸三：「夢を育むケナフに挑戦」, 技術教室, 2000年2月号, p.22～27
- 17) 脇谷貴成：「ケナフでどんな環境学習ができるのか」, 技術教室, 2000年12月号, p.35～40